

JEAN-FRANCOIS MILLET

ジャン=フランソワ・ミレー(1814~1875)



種まく人

リトグラフ

19.1×15.6cm

希少な幻の作品

バルビゾン派七星・真の農民画家

JEAN-FRANCOIS MILLET

ジャン＝フランソワ・ミレー (1814～1875)



作品名 種まく人

種類 リトグラフ

サイズ 19.1×15.6cm 1851年作

DE LART M22 ※ 希少な作品

略 歴

- 1814 ノルマンディ地方、グリュシーの裕福な農家に生まれる。
- 1837 ラングロワの推薦によりシェルブール市の奨学金を得てパリへ
- 1840 友人の父を描いた肖像画『ルフラン氏の肖像』がサロンに初入選
- 1846 後のバルビゾン派のトロワイヨン、ディアズ、ジャック、ルソーらと出会う。農村をテーマとした新しい作風に変化していく
- 1853 サロンに『種をまく人』を出品
- 1855 パリ万博に『接ぎ木する人』を出品し好評
- 1856 エッチング作品を制作
- 1857 サロンに『落ち穂拾い』を出品
- 1859 依頼により『晩鐘』を制作。
- 1862 パリ公会堂での美術家連合サークル展に『井戸から戻る女』を出品し評判となる
- 1864 『羊飼いの少女』がサロンで一等賞を受賞 ミレーの生家を故郷で描く。
- 1868 レジオン・ドヌール勲章を受章
- 1870 既に米国に収集家があり、デュラン＝リュエルが主要画商となる
バビルゾンにて死去。友人ルソーと墓地を隣にして埋葬

- 1875 この作品は油彩の「種まく人」が発表された翌年 1851 年に制作されたが、おそらく 1 枚だけ印刷された。その後印刷はされずミレーの死後、1879 年に数枚の試し刷りをした。1889 年 25 枚限定で印刷され、限定番号が記されている。現在この作品はほとんど残っていない。1908 年もしくはその数年前の間、ほんの少しの枚数(2～3 枚)が印刷された。非常に枚数の少ない希少な作品である。
石版原版は破棄された。
合計 10 枚に満たない位の作品しか残っていないと思われる。
正に幻の作品である。